

会計人材とAI

AI時代における会計人材の役割

公認会計士・監査審査会 会長 青木 雅明

2025年9月13日

CUC会計ファイナンス研究科との関わり

▶ 東北大学会計大学院

- ▶ 院長：2007年4月～2021年3月
- ▶ 副院長：2005年4月～2007年3月、2021年4月～2022年3月

▶ CUC会計ファイナンス研究科

- ▶ アドバイザリーボード委員長：2016年4月～2019年3月
- ▶ 教育課程連携協議会会長：2019年4月～2022年3月
- ▶ IGSAP(International Graduate School of Accounting and Policy)へのご支援をいただく：2015年～2020年

略歴

- ▶ 大学での教育歴
 - ▶ 広島修道大学（1988年4月～1993年3月）：管理会計、原価計算、簿記
 - ▶ 青森公立大学（1993年4月～2000年3月）：管理会計、原価計算
 - ▶ 東北大学大学院経済学研究科（2000年4月～2005年3月）：管理会計（学部）、原価計算（大学院）
 - ▶ 東北大学会計大学院（2005年4月～2022年3月）：管理会計（学部）、管理会計（大学院）
- ▶ 研究
 - ▶ 会計に対する数理的アプローチ（The Nucleolus in Common Cost Allocation）
 - ▶ 非財務指標に関する実証分析（統計分析：非財務指標）
 - ▶ Balanced Scorecard（ケーススタディ：中小企業への適用）
- ▶ 公認会計士・監査審査会
 - ▶ 公認会計士試験試験委員（管理会計）：2011年12月～2016年11月
 - ▶ 常勤委員（2022年4月～2025年3月）
 - ▶ 会長（2025年4月～現在）
- ▶ 経歴から分かること：経験にかなり偏りがある。

会計におけるAI

▶ AIの定義

- ▶ 識別系AI：決められた行為の自動化が目的。データの整理・分類を学習し、その結果の基づいて判別をしたり、予測や分析の結果を出力する。
 - ▶ 例：データ入力の自動化、仕訳業務の自動化、請求書処理の自動化、財務レポートの自動生成、経費精算・交通費精算の自動化
- ▶ 生成AI：文章や画像、音声などのコンテンツを自動で生成する。これらのコンテンツを生成するために学習することができる。
 - ▶ 例：エラー検出と異常検知、会計上の論点抽出、予実分析・財務分析・資金調達計画への活用、社内問い合わせ対応、業務品質の均質化

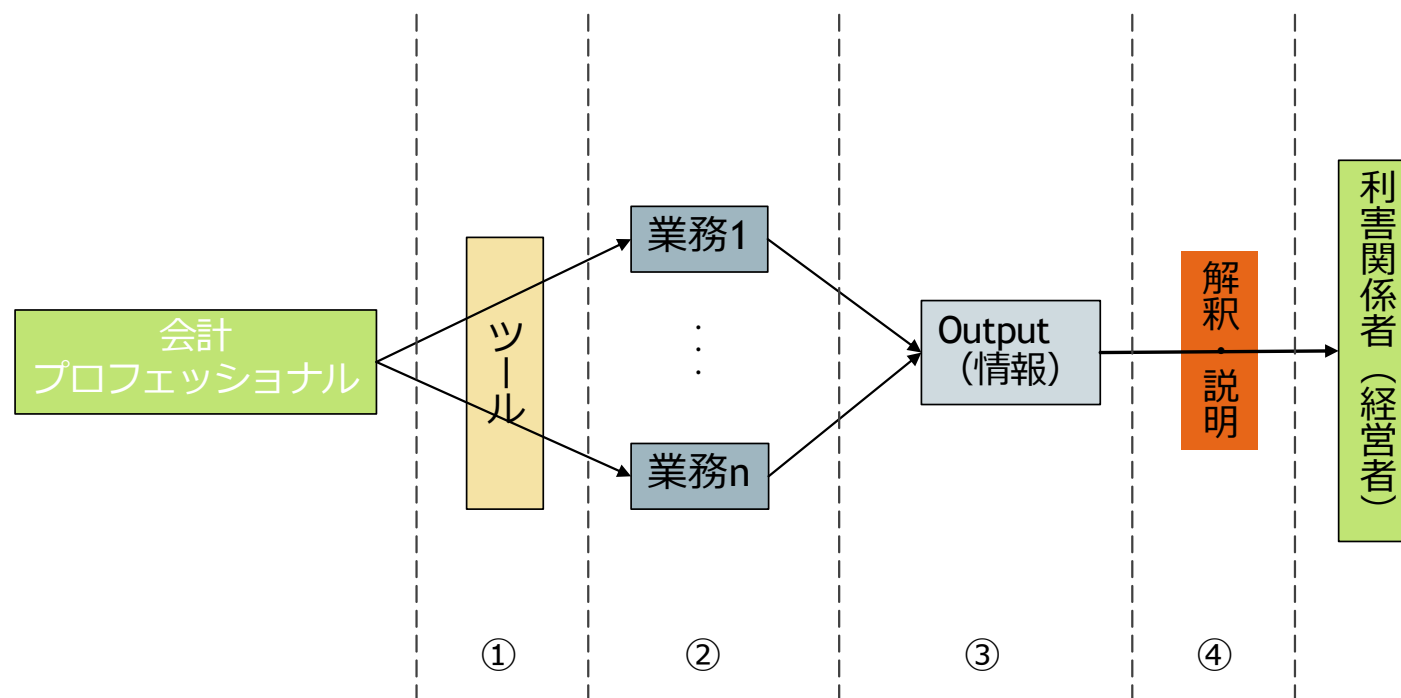
AIの導入が考えられる会計領域

- ▶ 業務の効率化と自動化（会計業務一般）
 - ▶ データ入力と処理の自動化
 - ▶ 仕訳・照合業務の自動化
 - ▶ 決算業務の迅速化
 - ▶ →主として「識別系AI」
- ▶ 監査の質の向上と効率化
 - ▶ 全件監査の実現
 - ▶ リスク評価の高度化
 - ▶ 監査手続きの自動化
 - ▶ →「識別系AI」と「生成AI」
- ▶ 管理会計関連
 - ▶ 財務分析と予測の高度化
 - ▶ リスク管理とコンプライアンスの強化
 - ▶ 業務効率化とコスト削減
 - ▶ 経営戦略への貢献

会計プロフェッショナルの仕事をモデル化

- ▶ 私の経験（大学34年、審査会3年）に基づく。
 - ▶ 主として、監査と管理会計（CFO）の業務を念頭に置いている。
 - ▶ 会計プロフェッショナルは個人を想定しているが、グループにも適用可能。
- ▶ それぞれのプロセスで付加価値を加え、企業（組織）価値を大きくするという考え方。
- ▶ 会計プロフェッショナルの仕事を情報の生成・加工・説明と単純化。
 - ▶ 公認会計士の場合：監査ツールを利用して監査業務を行い、監査報告書を作成する。利害関係者（外部：株主・投資家等、内部：監査役、監査委員会）
 - ▶ CFOの場合：分析ツールを用いて分析を行い、企業価値を高めていくための方策（戦略）を提案。
- ▶ 情報の流れに焦点を当ててモデル化している。
 - ▶ 説明の都合上番号を割り当てているが、これは順番を示しているものではない。同時に行われるケースもある。
 - ▶ AIと情報の関係について考える。

モデル：会計プロフェッショナルの役割



モデルについて

▶ ①について

- ▶ 様々なAIツールが利用される。
- ▶ ITに関する十分なスキル。特にセキュリティやリスクに関する知識が必要。

▶ ②について

- ▶ 特に今後数年は、識別系AIにより自動化が図られる可能性が大きい。
- ▶ 現時点では、生成AIは限られた範囲でしか利用されないが、その範囲は広がっていくと思われる。

▶ ③について

- ▶ OutputはReportの形をとる。定型化されている報告書であれば、生成AIにより作成可能。
- ▶ 業務(②)において得られたデータもOutputである。

▶ ④について

- ▶ 将来的に、AIに学習させることにより、ある範囲については生成AIで行える可能性もある。
- ▶ Outputを解釈する能力が必要。

会計プロフェッショナルに求められる能力

- ▶ ITに関する知識・スキル
 - ▶ Securityに関する知識
 - ▶ AIツールを評価する能力
- ▶ 効率化により生じた時間の活用を考える
 - ▶ 企業（組織）価値を高めるためには何が必要か？
 - ▶ 会計以外の知識(経営・経済等)
 - ▶ 自分なりの方法論（ものの見方）を身につける
- ▶ データに関する嗅覚
 - ▶ AIにどのようなデータを学習させればいいのか？
 - ▶ データの正確性・一貫性
 - ▶ データを鵜呑みにしない
- ▶ コミュニケーション能力
 - ▶ 様々な利害関係者に対して説明する能力

会計大学院における教育

- ▶ AIを活用した教育
 - ▶ AIのデータを利用した分析
 - ▶ AIのデータに対して疑問を持つことを忘れない
 - ▶ 論理的な考え方を身につけさせる
- ▶ 講義のやり方における課題
 - ▶ レポート・宿題の意義？
 - ▶ 学生がAIを用いて課題を解くことは避けられない
 - ▶ 論文指導は？
 - ▶ 先行研究の確認
 - ▶ 論文を読む能力
 - ▶ 文章作成能力
- ▶ 求められる能力：順応性・即応性